

昭和医科大学保健医療学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

看護学科 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的、段階的なカリキュラムを全学年にわたって構築しています。病院での実務実習は本学の附属病院とともに、学外施設でも実施します。カリキュラム（教育課程）策定方針を以下に列挙します。

1. プロフェッショナリズム

看護職としての良識、倫理観および強い責任感を醸成するための科目（医療現場での実習を含む）を1年次から各学年で開講する。法規・ルールを理解するための科目は2年次から開講する。良識、倫理観および強い責任感をもって人間性豊かな医療を実践する態度を身につけるために、2年次から実習を行う。

知識と態度に関する評価は、観察記録、ポートフォリオ、レポート等を用い、成長過程も合わせて評価する。

2. コミュニケーション能力

1年次は寮生活、初年次体験実習（在宅・福祉施設訪問等を含む）、学部連携科目等を通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、医療人として患者・家族、医療スタッフ等と適切に対応し、情報の収集・提供能力を修得するために、模擬患者を対象としたロールプレイ演習を含む学修を行う。2年次からは、患者や家族との関わりを通して看護を展開する基礎的能力を養い、他学部学生、多職種との連携を実践する多様な科目を開講する。

これらは、観察記録、レポート、ポートフォリオ等を用いて評価する。

3. 患者中心のチーム医療

体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身につけるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2年次から3年次は、多職種間の相互理解と連携・協力のもとに、病院や在宅の場面でチーム医療を実施するシミュレーションとして、累進的に構成された学部連携 PBL チュートリアルや在宅チーム医療教育等含む科目を開講する。3年次後期には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身につけるため、附属病院・地域での実習・学部連携実習を行う。4年次の応用看護学実習では医療チームの一員として主体的に看護活動および医療に参加し看護職の役割を理解する。

チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価は観察記録、ポートフォリオ、レポート等を用いて評価する。

4. 専門的実践能力

1年次より、医療人としての構えの基盤を身につけ、人を系統立てて理解するために人文社会科学・自然科学・形態機能学を学び、学年進行に応じて看護学への応用が修得できるよう、体系的かつ段階的に科目（講義・演習・実習）を構築する。1年次から2年次において、・

疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度に関する科目を開講し、看護を適切に実践するために必要な知識、技能、態度を修得するための科目を開講する。これらの科目で身につけた科学的な根拠と統合的な能力を基盤に、身体・精神・社会的背景を考慮した看護過程（情報収集とアセスメント、計画、実施、評価）の展開ができるように、3年次後期から4年次にかけて本学附属病院および訪問看護ステーション・老人保健施設等で実習を行う。

保健師課程では、3年次に行う選抜試験に合格した学生へ、公衆衛生看護学の科目を開講する。4年次には保健所、保健センター等での実習を行う。

これらの評価には、観察記録、口頭試験、レポート、ポートフォリオ等を用いて評価する。なお、最終的な到達度は、卒業試験により総括的評価を行う。

5. 社会的貢献

在宅医療を実施する上での基本的な知識、技能、態度を修得するため、1年次から4年次まで段階的に地域医療（在宅チーム医療教育や在宅看護を含む）に関する科目を開講する。また、4年次からの保健師課程（選択）では、地域住民や多職種・他機関と連携協働しながら健康課題に取り組むための知識、技能、態度を修得する。

これらの評価には、観察記録、筆記試験、口頭試験、ポートフォリオ、レポート等を用いて評価する。

6. 自己研鑽

自ら発見した課題に対し、高度な専門知識と国際的視野、科学的根拠に基づいた問題解決能力を身につけ、省察と適切なフィードバックにより生涯にわたって科学的探究心を持ち続け、研鑽できる意欲と態度の基盤を養う。看護学の知識体系において必要とされる基本的な研究手法を修得し、4年次には卒業研究を行い、研究成果の発表と論文により総括的評価を行う。

7. アイデンティティー

全学年にわたる学部連携チーム医療学修プログラムや、保健医療学部内の学科連携教育を通し、本学の伝統や特徴を認識し、昭和医科大学卒業生としての誇りを持って医療・健康・福祉に貢献する看護師・保健師を養成する。

評価は口頭での確認やポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。

理学療法学科 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的、段階的なカリキュラムを全学年にわたって構築しています。病院での実務実習は本学の附属病院ですべて実施します。カリキュラム（教育課程）策定方針を以下に列挙します。

1. プロフェッショナリズム

理学療法士としての良識、倫理観および強い責任感を醸成するための授業科目（医療現場での実習を含む）を1年次から各学年で開講する。法規・ルールを理解するための授業科目は2年次から開講する。授業で培った良識、倫理観および強い責任感をもって人間性豊かな医療を実践する態度を身につけるために、2年次後期から医療現場で参加・実践型の実務実習を行う。後輩を育てる責任感を培うため、後輩への学習支援の一環として、チューター制度を導入している。

知識に関する評価は筆記・口頭試験、態度を加えた評価は実習中の観察記録、ポートフォリオ、レポート、等を用い、成長過程も合わせて評価する。

2. コミュニケーション能力

1年次は寮生活、初年次体験実習（在宅・福祉施設訪問等を含む）、学部連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、医療人として患者・家族、医療スタッフなどと適切に対応し、情報の収集・提供能力を修得するために、行動科学演習、PBL チュートリアルなどの授業科目において参加型学習（模擬患者を対象としたロールプレイ実習を含む）を行う。2年次後期からは、附属病院での臨床実習において、患者や家族との医療面接・評価・治療および他学部学生、多職種との連携を実践する多様な実習を行う。これらは、観察記録、レポート、ポートフォリオ、等を用い、成長過程も合わせて評価する。

3. 患者中心のチーム医療

体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身に付けるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2年次から3年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をもとに、チーム医療を実施するシミュレーションとして、累進的に構成された学部連携 PBL チュートリアルを各学年で開講する。4年次には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身に付けるため、附属病院・地域での実習・学部連携実習を行う。

チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価は観察記録、ポートフォリオ、レポート等を用い、成長の過程も合わせて評価する。

4. 専門的実践能力

身心の構造と機能を理解するために、1年次より人文社会科学・自然科学・基礎医学の基礎知識を学び、学年進行に応じて理学療法への応用が修得できるよう、体系的かつ段階的に講義・演習・実習を構築する。身体運動の成り立ち・病気のメカニズム・身心の評価法を理解するための科目は2年次より、理学療法を適切に実践するために必要な知識、技能、態度を修得するための講義と実習は3年次より開講する。

これらの授業で身につけた能力を実習前実技試験で評価したのち、科学的な根拠と統合的な能力を基盤に、心理社会的背景を考慮した理学療法(評価、問題把握、予後予測、目標設定、治療・援助)を実践できるようにするために、3年後期から3か所の附属病院で22週間の参加型臨床実習を行う。

これらの評価には、観察記録、口頭試験、レポート、ポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、最終的な到達度は、卒業試験により総括的評価を行う。

5. 社会的貢献

在宅医療を実施する上での基本的な知識、技能、態度を修得するため、1年次から4年次まで段階的に地域医療(在宅チーム医療教育を含む)に関する講義と実習を開講する。

これらの評価には、観察記録、筆記試験、口頭試験、ポートフォリオ、レポート等を用い、成長の過程も合わせて評価する。

6. 自己研鑽

基本的な研究手法を修得するために、3年次に理学療法研究法演習において研究倫理ならびに統計的手法を学ぶ。さらに高度な専門知識、研究手法、そして科学的根拠に基づいた問題解決能力を身につけ、省察と適切なフィードバックにより生涯学習の重要性の基盤を学ぶ。4年次に卒業研究を行い、研究成果の発表と論文により総括的評価を行う。

7. アイデンティティー

全学年にわたって実施する4学部連携教育や、アイデンティティー教育により、本学の伝統や特徴を認識し、昭和医科大学卒業生としてのプライドを持って医療に貢献する理学療法士を養成する。

評価は口頭での確認やポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。

リハビリテーション学科 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的、段階的なカリキュラムを全学年にわたって構築しています。実習は本学の附属病院とともに、学外施設でも実施します。カリキュラム（教育課程）策定方針を以下に列挙します。

1. プロフェッショナルリズム

リハビリテーション分野を担う専門職に求められる良識、倫理観および強い責任感を醸成するための科目（医療現場での実習を含む）を各学年で開講する。医療および福祉に関連する法規やルールを理解するための科目を1年次から開講する。良識、倫理観および強い責任感をもって人間性豊かな医療を実践する態度を身につけるために、2年次から実習を行う。自らの学修の理解度を確認するために、また後進を育てる責任感を培うために、後輩の学修支援の一環として、SI制度を活用する。

知識は筆記および口頭試験を行い、態度、姿勢は観察記録、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用いて評価する。形成的評価を繰り返し行い、総括的評価につなげる。

2. コミュニケーション能力

多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築できるように、段階的に実施される学部連携チーム医療学修プログラムを各学年で開講する。また医療人として患者や家族、医療スタッフ等と適切な関係を構築する能力、情報を収集する能力、情報を提供する能力の修得を目指して、1年次からコミュニケーションに関する科目を開講し、2年次から実習を行う。実習では、リハビリテーションの評価や治療を実践するための対象者との医療面接やコミュニケーションを学ぶとともに、他学部・他学科の学生や多職種との連携実践のあり方を学ぶ。

知識は筆記および口頭試験、レポート等で評価し、技能・態度は、チェックリスト、観察記録、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用いて評価する。形成的評価を繰り返し行い、総括的評価につなげる。

3. 患者中心のチーム医療

体系的・段階的な学部連携チーム医療学修プログラムを全学年で実施する。チーム医療の基本や多職種間の相互理解と連携・協働を学修するために、1年次では、全寮制教育制度を活かして初年次体験実習、地域医療入門やチーム医療の基盤等の科目を開講する。2年次から3年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をもとに、臨床や在宅医療の場面でチーム医療を実施するシミュレーションとして、累進的に構成された学部連携PBLチュートリアルや在宅チーム医療教育等を含む科目を開講する。3年次後期には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身につけるため、附属病院・地域での学部連携実習を行う。

チーム医療の実践に必要な知識・技能・態度を、チェックリスト、観察記録、ポートフォリオ（成果物や思考過程を含む）、レポート、ルーブリック等を用いて評価し、それらを総合して判断する。学部連携病棟実習におけるパフォーマンスは、多職種を含むチーム全体で360度評価を導入する。形成的評価を繰り返し行い、総括的評価につなげる。

4. 専門的実践能力

1年次より、医療人としての構えの基盤を身につけ、人を系統立てて理解するために人文社会科学・自然科学・形態機能学を学ぶ。2年次以降は、リハビリテーションの考え方を踏まえた臨床推論能力を培い、臨床実践に必要な技術や態度を段階的に修得するために、体系的かつ段階的に科目（講義・演習・実習）を構築する。

2年次より各学年において実習を行い、科学的根拠を患者に適用させていく能力、患者や対象者の身体・精神・心理社会的背景を考慮した各療法によるリハビリテーション支援のプロセス（評価、問題把握、予後予測、目標設定、治療・援助）の実践能力の段階的な修得を目指す。

知識は筆記試験、口頭試験、レポート等を用いて、技能・態度はチェックリスト、客観的臨床技能試験等で評価を行う。臨床実践能力は、観察記録、口頭試験、デイリーレポート、ポートフォリオ（成果物や思考過程を含む）、チェックリスト、ルーブリック等を用いて総合的に評価する。形成的評価を繰り返し、総括的評価を行う。

5. 社会的貢献

地域や在宅医療に貢献するのに必要な知識、技能、態度を修得するために、1年次から段階的に地域医療に関する科目（在宅チーム医療教育を含む）を開講する。

知識は筆記試験、口頭試験、レポート等を用いて、技能・態度はチェックリスト、ポートフォリオ等で評価を行う。形成的評価を繰り返し、総括的評価を行う。

6. 自己研鑽

自ら発見した課題に対し、高度な専門知識と国際的視野をもって問題解決する能力、および省察する能力を身につけ、生涯にわたって科学的探究心を持ち続け、研鑽できる意欲と態度の基盤を養うために、3年次から基本的な研究手法を学ぶ科目を開講し、4年次には卒業研究を開講する。

自己研鑽の姿勢、態度についての省察と、それに対する形成的評価を繰り返し、自己研鑽の土台を築く。

7. アイデンティティー

本学の伝統や特徴を認識し、昭和医科大学で学んだことを誇りに思える姿勢や態度を醸成するために、また、社会ならびに医療に貢献できるリハビリテーション専門職であるという自信と自覚が持てるようになるために、全学年にわたる学部連携チーム医療学修プログラムや、保健医療学部内の学科連携教育を通し、リハビリテーションにかかわる職種として様々な職種とともに学び、自己の専門職としてのあり方を見つめ、省察する機会を適宜、設定する。

アイデンティティーの形成については、成長過程も含めてポートフォリオや自己評価アンケート等を用いて評価する。